

# 外国語科学習指導案

生徒 第3学年B組 男子19名 女子19名 計38名

指導者 教諭 宮野 健

## I 単元名 Unit5 『Electronic Dictionaries -For or Against』

Speaking Plus4 電話での応答一申し出る, 伝言をたのむ

## II 単元について

本単元では、名詞を修飾する語句の一つである現在分詞や過去分詞を用いた後置修飾の構造を理解させ、内容理解や表現活動が円滑に行えるようにすることが主なねらいである。後置修飾は、定着に時間がかかるが、スモールステップで段階的に練習を仕組み、表現の幅が広がる楽しさを実感させたい。

本時の学習では、ユニットにリンクしたコミュニケーション中心のプラスを扱う。電話での応対は、相手の表情やしぐさが目に見えない状態で適切な受け答えが必要とされる。電話会話特有の表現は一朝一夕に身につくものではないが、1・2年次に学んだ基本的な電話での表現をもとにして、より実践的な場面を想定したコミュニケーション活動を取り入れていきたい。

## III 単元の指導目標

(1) 辞書を活用するなどして友だちの英文を読んだり自分の英文を書いたりさせる。

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

(2) 目的に応じて場面や状況にふさわしい英文を書くことができるようにする。

【外国語表現の能力】

(3) “want (人) to ~” や “tell (人) to ~” などの文の構造を理解させる。

【言語や文化についての知識・理解】

## IV 本単元における言語活動

・ペアやグループで情報交換を行い、知り得たことについて英語で表現する。《解釈・説明》

## V 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①辞書を活用するなどして友だちの英文を読んだり自分の英文を書いたりしている。	①目的に応じて場面や状況にふさわしい英文を書くことができる。		①“want (人) to ~” や “tell (人) to ~” などの文の構造を理解している。

VI 指導と評価の計画（4時間扱い・・・本時4／4）

月	単元	題 材	指導目標	主な学習活動	時数	【言語活動系統表】との関連
10	Speaking Plus3	道案内	<p>①辞書を活用するなどして友だちが書いた英文を読んだり自分の英文を書いたりさせる。</p> <p>②目的に応じて場面や状況にふさわしい英文を書くことができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗り物での行き方を尋ねたり教えたりする表現を用いてロールプレイングを行う。</li> <li>・道案内のやりとりを英語で書く。</li> </ul>	2	【解釈・説明】
	Speaking Plus4	電話の会話	<p>③“want (人) to ~” や “tell (人) to ~” などの文の構造を理解させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話をかける側と受ける側に分かれてロールプレイングを行う。</li> <li>・電話でのやりとりを英語で書く。</li> </ul>	2 本時 2/2	

Speaking Plus3 & Speaking Plus4

観点	指導 目標	評価方法	Aの <u>キーワード</u> ・具体例	評価規準	Cへの手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	①	活動の観察	○辞書を活用するなどして英文を読んだり書いたりしている。	○辞書を活用するなどして英文を読んだり書いたりしている。	○使える表現を辞書から見つけ出せるように個別に支援する。
外国語表現の能力	②	活動の観察 ワークシート	○道案内や電話会話において、場面や状況にふさわしい英文を正確に書くことができる。	○道案内や電話会話において、場面や状況にふさわしい英文を書くことができる。	○教科書の英文や他の生徒の英文を参考にさせるなどして積極的に取り組めるように支援する。
外国語理解の能力					
言語や文化についての知識・理解	③	ペーパーテスト	○want (人) to ~” や “tell (人) to ~” などの文の構造を正確に理解している。	○want (人) to ~” や “tell (人) to ~” などの文の構造を理解している。	○後日個別に補充的な学習を行う。

## Ⅶ 生徒の実態について

コミュニケーションへの関心や意欲は全体的に高く、ペアやグループでの練習や会話の簡単なやり取りを好む生徒が過半数を占める。授業では男女ともに反応はよく、言語活動に積極的に取り組む。しかし、学年が進むにつれて徐々に英語の学習に苦手意識をもってきているものもいる。特に、英語を書いたり英作文に取り組んだりすることに抵抗をもっているものは少なくない。そこで、普段から聞く・話す・読む・書くという、4技能を意識した基礎的なトレーニングを授業の中にバランスよく取り入れて繰り返すことによって、その成果を生徒が感じとれるように指導を工夫している。

## Ⅷ 本時案

1 題材 「Speaking Plus4 電話での応答一申し出る、伝言をたのむ」

2 学習目標

・電話会話において、場面や状況にふさわしい英文を書く。

【外国語表現の能力】

3 学習の展開

○学習活動	○教師のかかわりと◆留意点	○評価規準と（評価方法）
<p>○既習事項の復習をする。</p> <p>○本時の学習目標を把握する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>場面や状況にふさわしい英文を書こう。</p> </div> <p>○友だちの英文を読んで、場面や状況にふさわしい対話になっているか考える。</p> <p>○自分の英文を読みなおす。</p> <p>○自分の英文を書きなおす。</p> <p>○書きなおした英文を用いて、友だちとロールプレイングをする。</p> <p>○自分の作文の傾向を知る。</p> <p>○次時の確認と挨拶をする。</p>	<p>○電話でよく使われる表現を場面を変えて復習させる。</p> <p>○電話会話で想定されるいくつかの場面を提示し、対話文を作らせる。</p> <p>○文法的な間違いや場面にふさわしくない個所に下線を引くように指示する。</p> <p>○指摘を受けた個所の間違いを直したり、なぜふさわしくないかを考えたりさせる。</p> <p>◆必要に応じて個別に指導する。</p> <p>○書きなおす前の英文を意識させる。</p> <p>○書きなおす前の英文やこれまで書いてきた英作文から、自分の傾向を簡単に分析させる。</p> <p>○家庭での学習内容の確認と次時の予告をする。</p>	<p>○電話会話において場面や状況にふさわしい英文を書いている【外国語表現の能力】(活動の観察・ワークシート)</p>